

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3771100777
法人名	特定非営利活動法人すばる
事業所名	すばるグループホーム
所在地	香川県東かがわ市馬篠333番地14 (電話) 0879-25-3291

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年9月19日	評価決定日	平成19年11月13日

## 【情報提供票より】(19年 9月 9日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 10月 25日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	13人 常勤 7人、非常勤 6人、常勤換算 6.1人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造銅板葺造り 2階建ての2階部分
------	-----------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	10,000円	
敷金	有( )円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

### (4) 利用者の概要(9月 9日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	4名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	56歳	最高	99歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	近藤内科クリニック、軒原医院、山本内科、白鳥皮膚科 さぬき市民病院、合田歯科医院
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>国道沿いの丘陵地の麓にあり、2階建ての元工場の2階部分を居心地よく生活できるよう改修したホームで、花や装飾品に季節感が感じられる工夫をしている。一人ひとりの人生体験を、ホームでの生活支援に活かすことを理念に掲げ、スタート時点での家庭訪問を行い、利用者の生活に主体を置き、代表者及び管理者、職員が丸となって取り組んでいる。地域の認知症高齢者のニーズに応え、共用型デイサービスが利用できるように、ホームの多機能性を強化した支援を行っている。また、協力医療機関との連携が充実し、利用者や家族に健康面での安心感を与えている。</p>
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価では、ケアサービス、運営体制について改善課題があったが、管理者、職員は課題を共有しており、改善可能な事項から取り組み、ほぼ改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員は評価の意義を理解しており、ホームの見直しの機会としている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は隔月に開催されており、ホームの現状を報告し、それぞれの立場の委員からの提案や意見をサービスの質向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会時に利用者の暮らしぶりや健康状態を伝え、ご意見・ご要望を聞いている。いただいた意見は、個人ファイルに記入している。家族が面会時、話しやすい対応の姿勢はうかがえるが、職員に話せない場合も考慮して、書面での報告及び意見箱の設置を検討して欲しい。また、ご意見・ご要望を管理者及び職員で検討後、記録として保管し、更なる運営の向上に反映させて欲しい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域ボランティアによる民謡や踊り、祭りの奴などが訪れてくれる。また、隣接する喫茶店で地元の人との交流をしているが、周囲に民家がなく、地域との交流が図りにくい立地条件のようであるので、運営推進委員会に働きかけ、老人会や地域活動への参加を検討して欲しい。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の人生体験を大切にし、共同生活をしながら、一人ひとりに寄り添える支援を基本とした独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームに理念を掲示し、管理者及び職員は理念を共有しており、日々のケアに活かされるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	周囲に民家がなく、地域との交流が難しい立地条件のホームだが、地域ボランティアの民謡や踊り、祭りの奴などが訪問してくれる。また、隣接する喫茶店で地元の人との交流を図っている。	○	地域との交流が図りにくい立地条件のようだが、運営推進委員会に働きかけ、老人会や自治会を通じ、地域活動への参加の検討を期待したい。また、幼稚園児や小学生との交流を目標に働きかけて欲しい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、ホームの見直しの機会となり、外部評価の改善点は前向きに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催される運営推進会議では、ホームの現状を報告し、それぞれの立場の委員からの意見を、ホームのサービス向上や地域の支援を得る機会にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者は、運営推進委員会に参加する等、ホームの運営上の相談ができる関係が保たれている。また、毎月、報告書類を市の担当者に提出する際、なお一層、連携を深める機会としている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に、利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えている。時には、電話連絡も行っている。今後、書面での報告の必要も考えて欲しい。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等のご意見・ご要望を面会時に聞く姿勢はうかがえるが、いただいた意見を、利用者の個人情報への記入のみになっている。	○	家族等が面会時に話しやすい雰囲気づくりは大切だが、職員と話せない場合も考慮して、意見箱の設置を検討して欲しい。また、ご意見・ご要望を管理者及び職員で検討し、記録として保管して、更なる運営の向上に反映させて欲しい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加の機会はある。日常業務の中で管理者からアドバイスを受れたり、職員同志でミニ勉強会等を行っているが、計画的な内部研修は行っていない。	○	職員は向上心が見受けられるので、計画的な内部研修を行って、よりレベルアップしたケアを目指して欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に所属し、東かがわ市の他のグループホームともチームを組み、勉強会や交流を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始までの流れは、市の社会福祉協議会のケアマネージャからの紹介により、ホーム職員が自宅へ出向き、本人や家族と面接し、馴染みの関係作りを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は一方的な介護される側でなく、共に生活している立場で、精神面でアドバイスをもらったり、調理方法を教えてもらう等、支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者同士の会話や、日々のしぐさ、表情などから、本人の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がよりよく暮せるための課題やケアのあり方を、家族の面会時に意見を聞き、関係する職員で話し合い、介護計画を作成している。	○	介護計画作成時に、なお一層、本人や家族の意見を取り入れて、本人主体の表現で計画を立てて欲しい。また、介護計画の実施期間は暦日の日付けを記入し、関わる全員に、より具体的に明示して欲しい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3か月ごとの見直しを行い、状態変化時は、その都度現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の支援をはじめ、近隣の認知症高齢者がデイサービスを利用できるように、グループホームの多機能性を強化した支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係の大切さを認識しており、ホームとかかりつけ医の関係を築き、往診または通院の支援を個々の利用者に行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の希望により、終末期の利用者の支援を行った例はあるが、ホームとしての方針はない。	○	重度化や終末期の対応については、本人や家族にとって不安や関心の大きいことだが、ホームとして対応方針を打ち出し、本人や家族との話し合いを重ねて欲しい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損なうような言葉かけや対応はみられない。利用者の氏名の表示や記録物の取り扱い等について、個人情報保護の姿勢がうかがえる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールはあるが、利用者の心身状態に合わせて、起床、入浴、外出などは、一人ひとりのペースを大切に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員が見渡せるようにセッティングされたテーブルを囲み、職員はさりげなく利用者の介助をしながら、食事を楽しんでいる。また、利用者の力量に応じ、食材の準備や片付けを職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日に入浴をゆっくり楽しめるようにしているが、利用者の状態や希望により、できるだけ合わせている。寒い時期には、入浴をしない日は足浴を楽しんでもらっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し、洗濯物たたみ、野菜の下準備の手伝い、水やり、草抜き等、一人ひとりの力量や生活歴にあわせた役割をもつことや、歌を歌う楽しみの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣接している喫茶店へ出かけたり、車で買い物に行く等の支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが2階にあり、2か所ある階段の踊り場が狭く、危険なため、家族にも了解を得て、鍵をかけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に備えての避難訓練は、消防署の指導により行い、連絡網も整備している。	○	夜間の災害時の対応を考慮し、今後、地震、水害などにも備えた災害マニュアルを作成して、職員が把握し、動ける体制作りが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、ホームで独自に立てた献立により調理され、個々の摂取量を把握し、水分量と共に記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体に自然な光や、季節感を取り入れた花や装飾があり、居心地よく生活できる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外は、利用者が使い慣れたタンス、椅子、テーブル、装飾品等、好みの物を持ち込み、居心地よく生活できるよう工夫している。		